守山市 発達支援センターだより

令和８年度 ９月号

令和８年９月１日発行
守山市発達支援センター（発達支援課）
守山市下之郷３丁目２番５号　すこやかセンター内
Tel：077-582-1158　Fax:077-581-1628



連日厳しい暑さが続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。さて、今号の発達支援センターだよりは、『ことばを育てるための基礎』と『こどもの“できた！”を増やそう－行動を通して理解する－』をご紹介します。

こ と ば を 育　て る た め の 基　礎

人の脳は、身体を動かす、物に触れる、見る、聞く、など様々な感覚刺激を入力することで発達すると言われています。ことばの発達も同様で、ことばを知り発信するまでに身体を作ることや様々な動きを経験することが大切です。

❖ ことばを育てる基礎

生活リズムの安定
- 睡眠
- 食事



感覚刺激の入力
- 全身を使った大きな動き、揺れ、回転、指先の動き、眼球運動…
→姿勢保持、追視、見比べる力

脳の活性化

人との関わり
- わかることが増える
→ことばを聞く経験
- ことばで伝える喜び
→発したことばに反応が返ってくる経験
- 情緒の安定
→周囲との安定した関わり



❖ ことばを“もっと伝えたい”意欲の育ち

こどものことばに大人が応じるやり取りは大切です。こどもの発する音声を大人が意味付けして共感しながら話しかけるうちことばを覚えていきます。ことばが話せるようになり、自分の思いを相手が受け止めて一緒に喜んだり悲しんだりしてくれると、もっと伝えたいという意欲が育ちます。これはテレビや動画ではできないことです。





❖ “遊び”は学び

幼児期のこどもは特に「楽しい」という気持ちと共にいろいろなことを吸収します。身体、手指を使いながらの遊びには、ことばの理解と共に数や順番、物の扱い方、形を見分けたり目で物を追ったり見比べたりなどの見る力、他者の視点を考えるなどいろいろな要素が含まれます。それによって集中力や目的に向かって行動する力、自分の身体への意識など様々な力が養われるので、こどもにとって楽しい遊びは学びそのものです。学習に向かうための基礎の力としてこどものことばが気になるとき、保護者の方が焦ってしまうことがあります。でもその力は、生活のリズムの安定、運動と遊びの中で培われます。ことばを交わしながら楽しく遊ぶことがとても大切です。

❖ まずは“よく見る”ことから

こどものことばについて気になることがあれば、まずはよく観察してみてください。すると行動の意味や発することばの意図、気持ちなどがくみ取れてきたり、どのくらいことばを理解しているのかが見えてくると思います。こどもの発することばを大人が繰り返す、大人が自分の行動や気持ちをことばにしながらこどもに見せる、物や動作、気持ちを大人がことばにして聞かせる、もう少し広げてことばに修飾語をつけて聞かせるなどの方法で、ことばは増えていくでしょう。どの程度聞こえているかなどを確認しながら、大人からは正しい発音でゆっくりと話しかけたいものです。

参考文献　ことばをはぐくむ（ぶどう社）　中川信子
育てにくい子にはわけがある（大月書店）　木村順

こどもの“できた！”を増やそう　ー行動を通して理解するー

「どうしたらこどもの“できた！”を増やせるだろう？」とこどもと関わる中で感じたことはありませんか。こどもの行動の仕組みを理解することで、こどもの“できた！”を増やすことができます。

❖ “行動”を整理してみよう

こどもの行動には必ず理由があります。行動は「前（きっかけ）」、「行動」、「後（結果）」の流れで起きています。行動の前と後に注目することで、その理由やよく起こる場面が見えやすくなります。

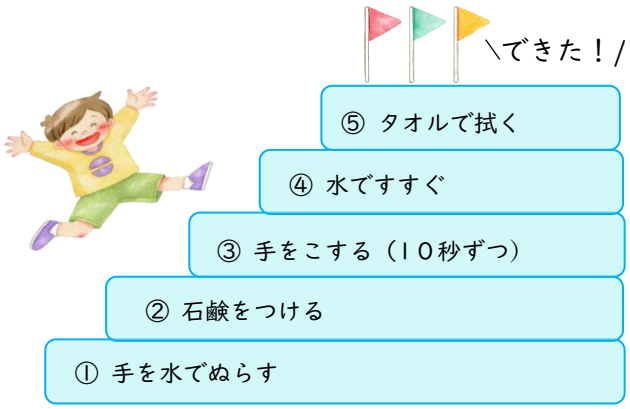


こどもにとって「うまくいく結果（うれしいこと）」があるとその行動は増えます。行動を増やす働き（強化）をするもの、関わり、環境の変化を「強化子」と呼びます。強化子によっては、困った行動が強化されてしまうこともあります。まずは「なぜその行動が起きているのか」を考え、望ましい行動を増やす工夫をしていくことが大切です。

≪関わり方のポイント≫
- こどものできていること、頑張っていることを意識して見つける。（例）「座って話を聞けているね」
- すぐに具体的に褒める。（例）「できたね」→「片づけがきれいにできたね」
- こどもに合った嬉しいこと（ほめ方）を見つける。（例）ハグ、シール、声掛けなど

❖ スモールステップについて

大人が何気なく行っている行動もこどもにとっては、複雑で難しいことがあります。大きい目標は小さなステップに分けて、取り組みやすくしてみましょう。小さなステップにすることで望ましい行動が出やすく褒める機会が増え、どのステップが苦手なのか分かりやすくなります。例えば「自分で手を洗う」を分けてみると…



≪ポイント≫
- ●既に出来ていることからスタートし、成功体験を増やすことが大切です。
- ●出来なかったら、ステップを1つ後戻りしたり、さらに細かいステップに分けてみましょう。

“できた！”という経験が積み重なることでこどものやる気や自信につながります。一人一人のペースを大切に一緒に喜びながら、“できた！”を増やしていけるといいですね。

最後に研修のお知らせです！

発達支援課連続講座～いまさら聞けない発達支援の基礎知識～（すこやかセンター3階　講習室・午後4時～午後4時45分）

- 第1回　日時：9月25日（金）　テーマ：発達相談について
- 第2回　日時：11月2日（月）　テーマ：療育手帳について
- 第3回　日時：12月18日（金）　テーマ：ケース検討の持ち方